

2024年平和で安全で住みやすい町をみんなでつくっていきましょう 新年のご挨拶を頂きました。

初生町南自治会 猿田 金昭会長

令和6年 新年を迎え、心よりお慶び申し上げます。
昨年は地域の活動・行事・イベントとフル活動に戻りつつあり、多くの皆さんの協力参加を頂き、誠にありがとうございました。

元日には「能登半島地震」が発生し、当地域も揺れを感じました。一日も早い復旧を願っていますが、遠い出来事ではありません。「東南海トラフ地震」がいつ襲ってくるかわかりません。災害に備え、一段と地域防災を行政と共に力を合わせて取り組んでいかなければなりません。

本年は、昨年以上の成果を上げることができるよう、皆さんとともに自治会活動を行ってまいりたい所存です。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

シニアクラブ初生睦会 金原 正廣さん

新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナが5類に移行し、皆様の協力によりシニアクラブの活動もようやく従来通りに行えました。今年は辰年、昇竜のように高みを見つめ会員の「健康、親睦、奉仕」を今以上に充実したく思います。

「健康」フレールになる人をなくすため、ロコモーショントレーニング、体操、グランドゴルフに力を入れます。
「親睦」輪投げ、カラオケ、舞踊、演芸大会の参加、日帰りバス旅行で多くの人と語らい親睦を図ります。
「奉仕」地域のための環境整備にシニアができる範囲の協力をします。

皆様の一年が充実した健やかな年となりますように。

初組組長 志賀 修さん

令和6年度浜松まつりに向けて
新年あけましておめでとうございます。
昨年は浜松まつり参加30周年の記念行事、浜松まつり本番に自治会さんをはじめ町民の皆さんのご協力のおかげで無事に成功に終えることができました。ありがとうございました。

本年度の浜松まつりに参加するにあたり初組役員が一致団結し初心に戻り、参加する大人も、子供も笑顔で楽しみ、そして初家様が心に残る浜松まつりを目指し頑張っ

ていきます。今年の浜松まつりは通常開催になります。ご迷惑をかける事もあると思いますが、役員一同力を合わせ頑張っていきます。

本年も初組の活動にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

民生・児童委員

○ 栗林清さん (1~3部担当) TEL437-2102

初生町南自治会には3名の民生・児童委員がいます。私たちは町内の皆さんの困り事の相談や、必要な時には各関係機関につなぐという役割を持っています。今年から区再編で活動拠点が中央区になりますが、今後とも皆さんとお互いに健康で地域の民生・児童委員として努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します

○ 羽田敦子さん (4・5部担当) TEL477-6810

民生・児童委員の職務は、高齢者・障がい者・児童・母子家庭など擁護の必要な方の相談窓口となり、必要に応じて行政や専門機関に取次をして適切なサービスが受けられるようサポートをすることです。「福祉サービスのこと」「生活や健康面の不安なこと」「子育てのこと」「虐待のこと」などで相談事がありましたらお声掛け下さい。安心して暮らせる地域づくりに努めたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○ 水田昌孝さん (6~8部担当) TEL436-2531
今年から委員となりました。よろしくお願い致します。

<11月・12月の自治会活動>

- 11月19日 安否確認(各戸防災訓練黄色のタスキ掲示)
- 11月26日 6~8部可搬ポンプ訓練(部長・組長参加)
- 12月3日 合同防災訓練(初生小)
- 12月16日 第9回部長会
- 12月24日 コミホ大掃除

<1月以降の自治会活動>

- 1月20日 第10回部長会
- 1月21日 炊き出し訓練(コミホ)
- 3月2日 今年度組長振り返り
- 3月16日 定期総会

初生町 6 自治会合同防災訓練

～災害は決してひとごとではありません。万全な備えを～

令和5年12月3日(日)初生小学校グラウンドで実施されました。訓練には、自主防災隊員、北星中学校生徒、高校生、小学生、地域住民が参加をしました。毎年、数多くの中学生、高校生が参加しています。途中で帰る子もいましたが、「災害の時は頼むね」と声をかけると、「任せて下さい」と元気な声で応えてくれました。

南海トラフ大地震を想定して、様々な訓練を行いました。訓練の内容は下記の通りです。

<本部訓練：中高校生の受付>



<総括部訓練：テント設営>



<救護部訓練：応急措置>



<避難誘導部訓練：2本の棒で担架を作り負傷者を運ぶ>



<消火部訓練：第29分団による可搬ポンプ指導>



<物資部訓練：大釜で湯を沸かしアルファ米に入れる>



<避難誘導訓練：車いす手押し訓練>



初生町南自治会では可搬ポンプ訓練と炊き出し訓練を独自に行ってきました。救護や避難誘導は、三角巾や毛布など身近なものを利用してとても参考になりました。正月の能登半島地震も自分事として受け止め、防災意識を高めていきたいです。ニュースで避難している方々は、全国から二次避難所の提供に対して、みんなで力を合わせて、故郷に住み続けたいと口々に申しました。災害関連死のリスクが高まる中、何より日常の相互扶助の関係性が、生きるための支えになっているのだと思います。顔の見える関係、困った時に相談できる関係を、自治会活動を通して築いていきたいですね。